

多高通信



第208号 令和5年2月27日発行
さとく ゆたかに たくましく
宮城県多賀城高等学校

東日本大震災メモリアルday

1月20日(金)、21(土)の2日間、本校が主催する「東日本大震災メモリアルday 2022」を、本校を会場に開催しました。今年度の開催から災害科学科1、2年生に加えて、普通科の1、2年生も参加し、地元の東豊中学校や県内の高等学校3校の参加の他、県外からは14校の参加があり、総勢600名を数える大規模な行事となりました。これまで「コロナ禍に阻まれて中止やオンラインでの開催となってきましたが、今年は3年ぶりとなる対面での開催です。

1日目は、開会行事の後に、参加校の学校紹介や東北大学災害科学国際研究所の佐藤健教授による基調講話、そして参加者によるグループワークが行われました。そして2日目には体育館を会場にしたポスターセッション(全78題)を行い、午後には本校災害科学科の生徒がナビゲートする「津波伝承まち歩きツアー」が行われました。

この2日間の日程をとおして、参加した生徒達は、防災・減災に関するお互いの取組や研究内容、地域に根ざした活動など、大いに刺激し合い、深く交流することができました。



【生徒感想】

■2年7組 大橋 いぶき(宮城教育大附属中出身)
今回の東日本大震災メモリアルdayは3年ぶりの対面での開催ということもあり、去年のリモートでの開催の時よりもグループワークが白熱し、より良い自分達の意見を作ることができました。また、ポスターセッションでは、自分達の学校だけではなく他校のポスターを見ることで、自分達の知らなかった防災制度、減災についての観点を知ることができました。これらは自分達の地域にもどんどん反映させていきたいと思えます。2日間という短い期間ではありましたが、その中で普段の生活では得られない充実した学びを得ることができました。これからは視野を広く持って、今回得た学びを将来に活かしていきたいです。



台湾防災ジュニアリーダー研修

2月1日(水)に台湾防災ジュニアリーダー(25名)と災害科学科2年生(14名)の交流会を、本校アイリスホールにて行いました。両国の文化についての相違点・共通点を知るとともに災害に対する考え方や防災・減災についての取り組みについて理解を深めることができました。また、今回はコミュニケーションツールとしてICT(多言語音声認識&翻訳)のアプリケーションを活用しました。異なる言語を使用しながら円滑にコミュニケーションを取ることができ、地域に住む外国人との災害時の緊急を要する「ミニコミュニケーション手段としての可能性も実感することができました。

災害による被害を最小限に抑えるための「自助」「共助」「公助」の考え方が重要であるため、今回は「自助」に焦点を絞り、災害時に身の安全を確保し

て生き延びるための備えとして、どのような物品が必要かについてグループで話し合いました。

「地域の実情を考慮してオリジナルの災害時持ち出し袋の物品を考えること」を目標に設定し、まずは日本と台湾の災害・生活・文化について情報交換しました。話し合いの中では気候による持ち物の違いや、家の中で起こりえること、想定にも違いがあり、今後の防災・減災の取り組みを考える上での新しい目線があるということを学びました。また、台湾で一般的な災害食を紹介してもらい、試食させてもらうことで食文化の違いについて理解を深めることもできました。



バドミントン部 仙塩選手権大会

男子学校対抗戦 準優勝!

■2年6組 吉川 凜(仙台市立西山中出身)

本大会に向けては、日常の練習で何を目的に練習しているか考えながら練習してきました。自分の苦手としている動きを友達に協力してもらい繰り返し練習したことにより、足を出すときに後ろに体重をかけずに前に重心を移動することで上手く動けることが分かりました。この結果スマッシュが良くなり、得点力がつき決勝まで進むことができました。



決勝の相手は、宮城県工業高校の生徒で、相手は攻めの姿勢にするための試合運びが上手でしたが、スマッシュを打たれても低く返すことで、自分達が次に攻め易いように工夫し善戦しました。

力及ばず準優勝となりましたが、県トップレベルにも力が通じると実感できたことは自信につながりました。今回の反省は、連戦での肉体的疲労でコンディション良く戦えなかったことでしたので、スタミナと筋力アップを目標に練習し、来年度の総体では、ベスト4を目指して頑張りたいです。



吹奏楽部 全国大会へ

◎全日本中学生高校生管打楽器ソロコンテスト ◎日本ジュニア管打楽器コンクール

■2年3組 高橋 伶奈(七ヶ浜町立向洋中出身)

私達、吹奏楽部は、3月20日、25日に東京で開催される「第25回日本ジュニア管打楽器コンクール全国大会」に、ソロ部門でフルート、アンサンブル部門ではフルート四重奏、クラリネット四重奏、サクソフォン八重奏、金管八重奏、また、「第27回全日本中学生高校生管打楽器ソロコンテスト全国大会」にマリンバソロで出場する快挙となりました。

私はパートリーダーとして雰囲気良くすることや、演奏を過信せずミスの短い時間で改善方法を考え、音楽表現を追究する時間を長くできたことが要因だと感じています。

これまで応援していただいた学校の先生方、友人、地域の方々、保護者の方に感謝し、全国大会でも自分達の音楽を伸び伸び表現できるように残された時間を大切に頑張っています。

